



町のわだい

今月の題字 東館 優希君 (山田南小6年)

鮭まつりに町内外から4千人 大物狙い豪快につかみどり

12月8日、山田魚市場で山田の鮭まつりが行われました。今年は町内外からのべ4千人が来場し、新巻きザケやはらご飯といった冬の味覚を買い求めています。メインイベントの鮭のつかみどりでは、倍率4倍の抽選を潜り抜けた100人が奮闘。参加者が気合十分に獲物を仕留める姿に、会場から大きな声援が送られました。今年、県内の秋サケ漁は前年比18%（11月末日時点）と落ち込んでいます。各地で鮭まつりや鮭つかみどりが中止になる中、関係者らの努力で開催できた山田の鮭まつり。その喜びを表すかのように、会場は熱気に溢れていました。



各講師が研究成果を発表 山田の歴史に理解深める

12月14日、町中央公民館小ホールで「山田町・岩手大学歴史講演会」が開催されました。講師は、岩手県立博物館学芸第一課長の小山内透さんと、本町出身で岩手大学平泉文化研究センター客員教授の伊藤博幸さん。当日は「古代・中世の山田の歴史と文化」と題して講演が行われ、約100人が来場しました。小山内さんは「沿岸部における古代・中世の鉄生産」について、伊藤さんは「古代閉伊郡の成立と須賀君氏」について講演し、最新の研究成果を発表。来場者らは、それぞれの講演を興味深く聞き入っていました。



町内の児童・生徒が挑戦 冬の味新巻きサケ作り

毎年12月になると、町内の児童・生徒が新巻きサケ作りを体験します。10日には、織笠小学校、轟木小学校、大浦小学校の5・6年生31人が、三陸やまだ漁協織笠女性部の指導のもと体験。この日は、サケの腹を割いて洗い、塩漬けにする作業をしました。はじめは血や、内臓などを見て嫌がっている児童もいましたが、織笠女性部の皆さんに教わりながら一生懸命新巻きサケ作りに挑戦。作業を終えた児童たちは「魚をさばくのが大変だった」と、新巻きサケ作りの苦労を体感しながらも「完成して食べるのが楽しみ」と、期待に胸を膨らませていました。

